

## 新入職員のご紹介

●2025年10月以降に入職された方です



★ゆうらいふナースステーション  
金森 裕也さん（理学療法士）



★ゆうらいふヘルパーステーション  
長谷川 令子さん（介護職）

★リハビリサポートすいれん  
久保 真依子さん（看護師）

## 第28回ケアマネ試験



リハビリサポートすいれん らいふステーション憩い  
介護職員 吉井 香織さん 介護職員 野島 みほこさん

## がんばっています！～外国人スタッフ～

9月より週1回3時間の日本語レッスンを開始し、インドネシア人のエヴァさん（花梨）、エヴァさん（ゆうらいふ）、ナラヤさん（すいれん）、ベトナム人のランさん（ゆうらいふ）の4人が日本語検定「N3」取得に向けて切磋琢磨しています。またインドリさん（花梨）は介護の資格取得に向け日々がんばっています！今年も引き続き、彼女たちの頑張りを職員皆さんで応援していきます！



信楽では陶芸を体験しました！

滋賀の魅力や日本文化に触れる機会をたくさん持つてもらいたいですね！

## 理事長おすすめの本

『人生後半にこそ読みたい秀歌』  
永田和宏著／朝日新聞出版



「加齢による当惑や孤独、後悔……。そんな交錯する思いを表現するには和歌が適しているのではないか。」

そんな思いに重なるように出会ったのが本書です。著者の永田和宏氏は、人生後半を「経験を味わう収穫期」と呼びます。言葉にできない寂しさに寄り添い、そっと背中を押してくれる一冊です。

本書から読みやすく抜粋した冊子を用意しました。ゆうらいふの各拠点で無料配布しています。お気軽に声をおかけください。

ゆうらいふ ●デイサービス ●総合事業 ●いきいき未来戦略部（事務局）  
〒524-0214 守山市立田町 1231-4 ☎ 077-585-4070

すいれん ●グループホーム ●デイサービス ●保育所  
〒524-0001 守山市川田町 1541-4 ☎ 077-584-2772

花梨 ●小規模多機能型居宅介護事業所 ●グループホーム ●事業所内保育所（認可）  
〒524-0214 守山市立田町 4135-1 ☎ 077-599-0531

憩い ●居宅支援事業所 ●小規模多機能型居宅介護事業所  
●ナースステーション ●ヘルパーステーション ●定期巡回・随時訪問型訪問介護看護  
〒524-0014 守山市石田町 735-3 ☎ 077-584-2300



特定非営利活動法人ゆうらいふ  
代表

守山市立田町 1231-4  
TEL: 077-585-4070

【Web】 <http://www.youlife.ne.jp>  
【メール】 [info@youlife.ne.jp](mailto:info@youlife.ne.jp)

お気軽に  
お電話  
ください

Vol.30

## ゆうらいふ職員のコラムコーナー プロフェッショナル リレー コラム

訪問看護師  
よねだ みさと  
米田 美里



訪問看護で働き初めて1年が経ちました。この1年、仕事を通じ大きく成長することができたと感じています。病院勤務時は、患者様とゆっくりコミュニケーションをとることができず、もどかしい日々でした。訪問看護では、利用者様お一人ずつ向き合う時間があります。「この利用者様には何が必要なのか、何を求めているのだろうか」と本人様、家族様含めた会話をする場があり、ベストな在宅支援を模索し実践できる場あります。「人生最期の時。あなたに看護してもらって良かった」と思ってもらえるような訪問看護師を目指しこれからも精進して参ります。

プライベートでは4歳、2歳の絶賛子育て母ちゃんです。沖縄好きで年2回家族で旅行に行きます



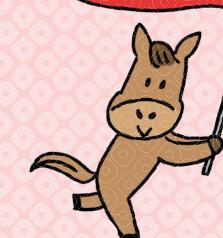
バトンを渡した人：川崎彩世さん（保育士） 2025年10月号登場

# ゆうらいふ通信

2026年1月発行



2026 トピックス



- 令和8年 新年のごあいさつ
- ～在宅生活を支えるゆうらいふの『人生会議（ACP）』への取り組み～
- ゆうらいふトピックス
- リレーコラム「プロフェッショナル」など

## 令和8年 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

ゆうらいふも今年は26年目を迎えます。

平成12年に始まった介護保険と共に成長し、昨年度に利用していただいた利用者さんの延数は、86,340名に及びました。これは利用者様を始めとして、ご家族や地域の皆様のご支援とご協力のお陰である、ここに厚く御礼を申し上げます。

仏教では25歳くらいまでを「学生期（がくしょうき）」と称し、勉学や体作りに励む時期とし、その後の25年を「家住期（かじゅうき）」と言い、人生において最も仕事が出来る時期としています。

ゆうらいふはまさしく、この「家住期」を迎える訳です。

これまで、皆様から教えて頂いた貴重な介護についての経験を糧に、「住み慣れた地域・我が家で、最期の時まで」の思いを大切にして、皆様の支援に努めて参ります。

今年も、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長 山田 亘宏



## ～在宅生活を支える

### 『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）』の取り組み～

#### ●なぜ ACP 研修に力を入れているのか

法人の理念を全職員で実践する為、終末期ケアのあり方について職員一人ひとりが我が事として考えてほしいとの想いから ACP 研修に注力しています。「最期の時まで住み慣れた我が家・地域で！」を実現する為には、本人が大切にしている価値観やこれまでの歩みに耳を傾ける事（意思尊重）が重要と考えています。往診医・看護師・介護士・ケアマネジャー等が本人・家族と緊密に連携し「ゆうらいふの理念の三原則\*」を実践する事が ACP の本質であると考えています。

#### ●組織をあげての学び：「対話」の力

ACP 実践に向けて、全職員が共通の認識を持ち、共に悩み、学ぶことで、組織全体の専門性を向上させることを目的とします。

第1回：ACP の基礎知識を習得し、ACP の意義を再確認しました。

第2回：グループワークによる対話「もし自分だったら」「もし家族だったら」と深く掘り下げ、我が事として考える力を養いました。

第3回（現在、実施中）：前回の研修会を振り返り、各々の想いをグループワークで共有し、ACPへの理解を深め、実践へ繋げてまいります。

◎2026年も法人理念の実践に向けて、共に学んでまいります！

#### ●地域での活動

◎2025/8/7 第66回守山顔の見える会（医療・介護・民生児童委員・行政 81名参加）  
「ACP を我事として考えてみよう～研修の実践からの学び～」



◎2026/3/21～22 日本臨床倫理学会 第13回年次大会  
「ACP 研修の学び（仮）」報告予定



専務 山田登喜子



#### NPO ゆうらいふの25年の歩み

2012年：あなたが“命の主人公”人生最期の“生き方”を自分で決める事ができます♥  
日本臨床倫理学会での学びの実践

2024年「ACP（人生会議）研修」を全職員で3クール実践できました

⇒職員全員が“人生最期をどう生きるか♥”我が事として考え、日々のサービスに活かしています  
①「介護職員の働きやすい職場環境づくり」の表彰をはじめ、日本臨床倫理学会や日本ケアマネジメント学会、医療・介護・市民ネットワーク全国の集いで発表を表彰して頂きました。②職員全員が利用者の自立（自律）支援を目指して、本人・介護者の想いに添った医療・介護サービス提供を実践できるよう心がけています。  
更なる「利用者満足」の推進を願います。

## ゆうらいふ トピックス さまざま 価値観との 遭遇

### ステージ企画

園児たちの可愛い発表や、地域の方々による催し物で、会場は大盛り上がり！大きな拍手が送られていました。



## 「すいれんマルシェ」開催！大盛況！ aki no marche

11月2日（日）に開催しました「すいれんマルシェ」は、天候にも恵まれ、おかげさまで大盛況のうちに終えることができました！ご来場いただいた、利用者様、園児、卒園児、ご家族、そして近隣の皆さん、心より感謝申し上げます。



当日は約430名もの皆さんにご参加いただきました！会場はたくさんの笑顔と活気に包まれました。

### 模擬店・飲食コーナー



地域の味や手作り品が並び、どこも長蛇の列！美味しい匂いが会場中に広がり、秋の食欲を満たすことができました。

### お楽しみコーナー

お子様から大人まで楽しめるゲームや体験ブースには、楽しそうな歓声が絶えず、思い出に残るひとときとなりました。

## 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第4回全国の集い in 鶴岡 2025 「優秀演題賞」受賞！

10月12日・13日に山形県鶴岡市で開催された全国の集いにおいて、リハビリサポートゆうらいふ介護職員の直正真子さん、小西沙希さんが演題発表を行い、優秀演題賞を受賞しました。

「利用者の自主性とは～尊厳を持って安心して暮らせる社会の実現のために～」をテーマに、昼食後の時間を心地よく過ごしていくため、利用者さんの「やってみたい」という思いを大切にし、活動内容や環境を見直す取り組みを発表しました。その結果、自ら活動を選び、仲間と交流しながら過ごす時間が増えています。

お二人は「日々、利用者様に真摯に向き合い積み重ねてきた、職員みんなの取り組みが評価され大変うれしく、今後の励みになります」と話していました。



←(写真左) 直正、(右) 小西